

第7章 保健体育

第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨等

1 教科目標

心と体を一体としてとらえ，運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して，積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに，健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り，明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全に ついての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全 についての知識・理解
自ら進んで運動を実施し，運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また，個人生活における健康・安全に関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した運動の課題の解決を目指して，活動の仕方を考え，工夫している。また，個人生活における健康・安全について，課題の解決を目指して考え，判断している。	運動の楽しさや喜びを味わうために必要な技能や体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	運動の特性と運動の合理的な実践に関する基礎的な事項や生活における運動の意義を理解し，知識を身に付けている。また，個人生活における健康・安全について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し，知識を身に付けている。

3 内容のまとめりごとの評価規準の設定

保健体育科においては，学習指導要領の内容まとめりごとの評価規準及びその具体例を体育分野と保健分野について作成した。

体育分野は，A体づくり運動，B器械運動，C陸上競技，D水泳，E球技，F武道，Gダンス，H体育に関する知識の内容のまとめり（各領域）ごとに評価規準を作成した。

保健分野は，(1)心身の機能の発達と心の健康，(2)健康と環境，(3)傷害の防止，(4)健康な生活と疾病の予防の内容のまとめり（各領域）ごとに評価規準を作成した。

第2 内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

体育分野

1 体育分野の目標

(1) 各種の運動の合理的な実践を通して，課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし，生活を明るく健全にする態度を育てる。

(2) 各種の運動を適切に行うことによって，自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに，体力の向上を図り，たくましい心身を育てる。

(3) 運動における競争や協同の経験を通して，公正な態度や，進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また，健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。

2 体育分野の評価の観点及びその趣旨

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また，公正，協力，責任などの態度を身に付けるとともに，健康・安全に留意して運動をしようとする。	運動の特性に応じて，自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して，活動の仕方を考え，工夫している。	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに，運動の特性に応じた技能を身に付けている。また，自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	運動の特性と学び方，安全の確保の仕方，生活における運動の意義，体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し，知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1) 「A 体づくり運動」

【学習指導要領の内容】

(1) 自己の体に関心を持ち，自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い，体ほぐしをしたり，体力を高めたりすることができるようにする。

ア 体ほぐしの運動

(ア) 自己の体に気付き，体の調子を整えたり，仲間と交流したりするためのいろいろな手軽な運動や律動的な運動

イ 体力を高める運動

(ア) 体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動

(イ) 力強い動きを高めるための運動

(ウ) 動きを持続する能力を高めるための運動

(2) 体づくり運動に対する関心や意欲をもって互いに協力して運動ができるようにする。

(3) 自己の体力や生活に応じて，体ほぐしの行い方と体力の高め方を工夫することができるようにする。

【「A 体づくり運動」の評価規準】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
体づくり運動に対する関心や意欲をもって互いに協力して運動をしようとする。また，健康や安全に留意して運動をしようとする。	自分の体力や生活に応じて，体ほぐしの行い方と体力の高め方を工夫している。	自分の体力や生活に応じて，体力を合理的に高めるための運動ができる。	体づくり運動の必要性や運動の行い方，心身への効果を理解するとともに，課題に応じた体づくり運動の構成の仕方を理解し，知識を身に付けている。

【「A 体づくり運動」評価規準の具体例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体の状態や変化に気付き，体を動かす楽しさや心地よさを味わおうとする。 ・仲間と協力して互いに補助し合ったり，反復したりして進んで運動に取り組もうとする。 ・体づくり運動の必要性を正しく受け止め，進んで体力を高めようとする。 ・お互いの体の状態を意識したり，気を配ったりして，運動をする上での安全に留意しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動や体力を高める運動の中から，自分の体力や生活の実状を踏まえて，目的にあった運動を選び，構成し活用している。 ・グループで運動を構成したり，施設や用具を効果的に利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力を高める運動を身に付けたり，合理的に体力を高めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動の意義とその行い方を知っている。 ・体力を高める運動の意義と高め方を知っている。 ・体ほぐしの運動や体力を高める運動の構成の仕方や活用の仕方を知っている。

*なお，「体ほぐしの運動」は，技能の獲得・向上を直接のねらいとするものではないことから，運動の技能の観点から削除している。

(2) 「B 器械運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を高め、技がよりよくできるようにする。
- ア マット運動
 - イ 鉄棒運動
 - ウ 平均台運動
 - エ 跳び箱運動
- (2) 互いに協力して練習ができるようにするとともに、器械・器具を点検し安全に留意して練習ができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した技を習得するための練習の仕方を工夫することができるようにする。

【「B 器械運動」の評価規準】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
器械運動の特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるように進んで取り組もうとする。また、互いに協力して練習しようとするとともに、器械・器具を点検し、安全に留意して練習をしようとする。	自分の能力に適した技を習得するための練習の仕方を工夫している。	器械運動の特性に応じた技能を身に付けるとともに、その技能を高めて運動することができる。	器械運動の特性や学び方、技術の構造を理解するとともに、練習の仕方や技のできばえの確かめ方を理解し、知識を身に付けている。

【「B 器械運動」の評価規準の具体例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・技がよりよくできたり、自分に適した新しい技を習得したりする器械運動の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・仲間と協力して教え合ったり、練習の場を整えたり、補助し合ったりして進んで運動に取り組もうとする。 ・集団で技を発表する場合には、個のよさが生かされるようにみんなで楽しもうとする。 ・器械・器具の安全を確かめたり、適切な場づくりや補助など、練習をする上での周囲の安全に気を配ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に適した技を選び、課題をもっている。 ・練習の進め方や場づくりの方法を選んだり、技のできばえを確かめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度できる技は、同じ技を繰り返したり、条件を変えたりしてできる。 ・ある程度できる技や新しく身に付けた技を組み合わせてできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の楽しみ方や学習の進め方、技の系、技群、グループの構造などの、技の系統性や発展性を知っている。 ・練習の仕方や場づくりの方法、練習計画の立て方、技のできばえの確かめ方を知っている。

(3) 「C 陸上競技」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い，その技能を高め，競技したり，記録を高めたりすることができるようにする。
 ア 短距離走・リレー，長距離走又はハードル走
 イ 走り幅跳び又は走り高跳び
- (2) 互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに，勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また，練習場などの安全を確かめ，健康・安全に留意して練習や競技ができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した課題の解決を目指して，練習の仕方や競技の仕方を工夫することができるようにする。

【「C 陸上競技」の評価規準】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
陸上競技の特性に関心をもち，楽しさや喜びを味わえるように進んで取り組もうとする。また，互いに協力して練習や競技をしようとし，勝敗に対して公正な態度をとろうとするとともに，練習場の安全や体の調子など，健康・安全に留意して練習や競技をしようとする。	自分の能力に適した課題をもち，その解決を目指して，練習の仕方や競技の仕方を工夫している。	陸上競技の選択した種目の特性に応じた技能を身に付けるとともに，その技能を高め，競技したり記録を高めたりすることができる。	陸上競技の選択した種目の特性や学び方，技術の構造，合理的な練習の仕方などを理解するとともに，競技や審判の方法を理解し，知識を身に付けている。

【「C 陸上競技」の評価規準の具体例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
・全力を出して競争したり，記録を向上させたりする陸上競技の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・互いに協力し，励まし合いながら進んで練習や競技を行おうとする。 ・勝敗や記録の結果を受け入れようとする。 ・体の調子や練習場などの安全を確かめるなど，練習をする上での健康・安全に留意しようとする。	・自分の能力に適した目標記録や課題を設定している。 ・課題解決のために効果的な練習の仕方を選んだり，記録の向上に合わせて効果的な練習の仕方や競技の仕方を選んだり見つけたりしている。	・選択した種目の特性に応じた技能で，練習や競技をすることができる。 ・自分の能力に適した技能について，動きのポイントを身に付け，その技能を高め，競技したり記録を高めたりすることができる。	・選択した種目の特性や学習の進め方及び自分の能力に適した課題の選び方，及びそれに合わせた練習や競技の仕方を知っている。 ・選択した種目のルール，競技や審判の方法を知っている。

(4) 「D 水泳」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を高め、続けて長く泳いだり、速く泳いだりすることができるようにする。
 ア クロール
 イ 平泳ぎ
 ウ 背泳ぎ
- (2) 互いに協力して練習ができるようにするとともに、水泳の事故防止に関する心得を守り、健康・安全に留意して練習ができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方を工夫することができるようにする。

【「D 水泳」の評価規準】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
水泳の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わえるように進んで取り組もうとする。また、互いに協力して練習ができるようにするとともに、水泳の事故防止に関する心得を守り、健康・安全に留意して練習をしようとする。	自分の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方を工夫している。	水泳の特性に応じた技能を身に付けるとともに、その技能を高め、続けて長く泳いだり、速く泳いだりすることができる。	水泳の特性や学び方、各泳法の技術の構造、合理的な練習の仕方などを理解するとともに、競技や審判の方法を理解している。また、水泳の事故防止の心得を実践的行動に結びつけて理解し、知識を身に付けている。

【「D 水泳」の評価規準の具体例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・続けて長く泳いだり、速く泳いだり、あるいは、競い合ったりする水泳の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・仲間と協力し、励まし合いながら進んで練習をしようとする。 ・水泳の事故防止の心得や練習・運動をする上でのルールを守るなど、健康・安全に留意しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に適した泳法を選択している。 ・続けて長く泳いだり、速く泳いだりするための目標記録や課題を設定している。 ・設定した課題を解決するための、練習や競争の仕方を選んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した泳法の特性に応じた技能で、泳ぐことができる。 ・自分の能力に適した技能について、動きのポイントを身に付け、その技能を高め、続けて長く泳いだり、速く泳いだりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳の特性や学習の進め方、各泳法の技術の構造、合理的な練習の仕方、練習計画の立て方を知っている。 ・競技やルール、審判の方法を知っている。 ・水泳の事故防止の心得や練習場のルールを守るなど安全な行動の仕方を知っている。

(5) 「E 球技」

【学習指導要領の内容】

(1) チームの課題や自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。

ア バスケットボール又はハンドボール

イ サッカー

ウ バレーボール

エ テニス、卓球又はバドミントン

オ ソフトボール

(2) チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようにする。

(3) チームの課題や自己の能力に適した課題の解決を目指して、ルールを工夫したり作戦を立てたりして練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができるようにする。

【「E 球技」の評価規準】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
球技の特性に関心をもち、楽しさや喜びが味わえるように進んで取り組もうとする。また、チームにおける自分の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームをしようとする。また、勝敗に対して公正な態度をとろうとする。さらに、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。	チームの課題や自分の能力に適した課題の解決を目指して、ルールを工夫したり作戦を立てたりして練習の仕方やゲームの仕方を工夫している。	選択した球技種目の特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。	選択した球技種目の特性や学び方、技術の構造、合理的な練習の仕方を理解するとともに、競技や審判の方法を理解し、知識を身に付けている。

【「E 球技」の評価規準の具体例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ルールや作戦に応じて勝敗を競い合う球技の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・チームにおける自分の役割を自覚して責任を果たしたり、教え合ったりして互いに協力しながら、進んで練習やゲームをしようとする。 ・ルールを守り、審判の判定や指示に従い、勝敗や結果を受け入れようとする。 ・施設・設備の安全や用具の管理をする、危険なプレーをしないで練習やゲームをするなど、健康・安全に留意しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今もっている自分(自分のチーム)や相手(相手チーム)の技能の程度などを的確に把握し、それに応じた作戦を立てている。 ・ゲームを通してチームや自分の課題を明らかにし、その課題の解決の仕方を選んでいる。 ・ゲームの結果から、チームや自分の新たな課題を明らかにし、技能の向上に伴う新たな練習の仕方を選んだり作戦を立てたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今もっている技能を発揮してゲームを行うことができる。 ・チームや自分の能力に適した課題の練習やゲームを通して集団的スキルや個人的スキルを高めることができる。 ・相手チームに対応した作戦でゲームができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した種目の特性や学習の進め方、集団的な技術や個人的な技術の構造、合理的な練習の仕方、練習計画の立て方を知っている。 ・競技の運営やルール、審判の方法を知っている。

(6) 「F 武道」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い，その技能を身に付け，相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。
- ア 柔道
イ 剣道
ウ 相撲
- (2) 伝統的な行動の仕方に留意して，互いに相手を尊重し，練習や試合ができるようにするとともに，勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また，禁じ技を用いないなど安全に留意して練習や試合ができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した技を習得するための練習の仕方や試合の仕方を工夫することができるようにする。

【「F 武道」の評価規準】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
武道の特性に関心をもち，楽しさや喜びが味わえるように進んで取り組もうとする。また，伝統的な行動の仕方に留意して，互いに相手を尊重し，練習や試合をしようとするとともに，勝敗に対して公正な態度をとろうとする。さらに，禁じ技を用いないなど安全に留意して練習や試合をしようとする。	自分の能力に適した技を習得するための練習の仕方や試合の仕方を工夫している。	武道の選択した種目の特性に応じた技能を身に付け，相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができる。	武道の選択した種目の特性や学び方，技術の系統性・構造，合理的な練習の仕方を理解するとともに，試合や審判の方法を理解し，知識を身に付けている。

【「F 武道」の評価規準の具体例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・自分に適した技を習得し，相手の動きや技に対応した攻防や勝敗を競い合う武道の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・礼儀作法を重んじて相手を尊重し，自分で自分を律する態度をとろうとする。 ・勝敗や結果を受け入れようとする。 ・用具や服装，練習場などの安全を確かめたり，禁じ技を用いないなど，練習や試合をする上での安全に留意しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本動作と対人的な技能との関連を図っている。 ・得意技を身に付けることができるよう，練習や試合の中で，すきやくずす（打突する）方法を見つけている。 ・試合では，個人・団体形式や体格別などを踏まえて，それぞれ判定の基準などを選んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本動作と自分の能力に適した対人的技能で練習することができる。 ・自分の能力に適した対人的技能のうちから得意技とすることができる。 ・得意技で相手の動きに対応した練習や試合をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・武道の特性や学習の進め方，基本動作や対人的な技術の構造，自分や相手の課題にあった練習や試合の仕方，練習計画の立て方を知っている。 ・選択した種目の礼儀作法，試合の運営やルール，審判の方法を知っている。

(7) 「G ダンス」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることができるようにする。
 ア 創作ダンス
 イ フォークダンス
 ウ 現代的なリズムのダンス
- (2) 互いのよさを認め合い、協力して練習したり発表したりすることができるようにする。
- (3) グループの課題や自己の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようにする。

【「G ダンス」の評価規準】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
ダンスの特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わえるように進んで取り組もうとする。また、互いのよさを認め合い、協力して練習したり発表したりしようとする。	グループの課題や自分の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方や発表の仕方を工夫している。	自分の感じ方や工夫を率直に表現し、感じを込めて踊ったり、みんなでかかわりをもって踊ったりすることができる。	ダンスの特性や学び方、歴史を理解するとともに、発表の仕方や鑑賞の仕方を理解し、知識を身に付けている。

【「G ダンス」の評価規準の具体例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・思い切り動く、感じを込めて動く、リズムに乗って動く、みんなでかかわりをもって動くなどのダンスの楽しさや喜びを味わおうとする。 ・互いの動きのよさ、感じ方や表現のよさなどを認め合って、誰とでも楽しく踊ろうとする。 ・互いの動きをよりよくしようと協力しながら、進んで練習や発表を行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定では、グループや自分に適した課題をもち、その解決を目指して、踊って確かめたり、見せ合ったりして動き方を選んだり、動きを見つけたりにしている。 ・踊り込みでは、テーマに合った動きを構成したり、踊り方の課題をとらえたり、動きに変化を付けたりにしている。 ・見せ合いや発表では、よいところを感じ取って成果を確かめ合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージにふさわしい動きや体で感じたリズムなどを率直に表現し、大きな動き、リズムに乗った動きなどで感じを込めて踊ったり、みんなで動きを合わせる、調子を合わせるなど、仲間とのかかわりをもって踊ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスは、集団や個人で踊り、表現したり交流したりすることが楽しい運動であるという特性や、学習の進め方、フォークダンスの由来を知っている。 ・いろいろなダンスの、発表の仕方やよい動き、共感、感動するなどの鑑賞の仕方を知っている。

(8) 「H 体育に関する知識」

【学習指導要領の内容】

(1) 運動の特性と学び方

各種の運動の特性に応じた学び方や安全の確保の仕方について理解するとともに、自己の生活の中での生かし方を理解する。

(2) 体ほぐし・体力の意義と運動の効果

体ほぐしの意義と行い方及び体力の意義と体力の高め方について理解する。また、運動の心身にわたる効果について理解する。

【「H 体育に関する知識」の評価規準】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
運動の特性と学び方，体ほぐし・体力の意義と運動の効果について関心をもち，運動の実践や生活に生かそうと進んで学習に取り組もうとする。	運動の特性と学び方，体ほぐし・体力の意義と運動の効果について，運動の実践や生活と結びつけて考え，工夫している。	/	運動の特性と学び方，体ほぐし・体力の意義と運動の効果について理解するとともに，運動の生活の中での生かし方や，運動の心身にわたる効果を理解し，知識を身に付けている。

【「H 体育に関する知識」の評価規準の具体例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
・各種の運動の特性と学び方や安全の確保の仕方，体ほぐしの意義と行い方，体力の意義と体力の高め方，運動の心身にわたる効果について関心をもち，進んで学習に取り組もうとする。	・運動の特性に応じた学び方があることを，実技の学習と関連づけて，けがやスポーツ障害への対処の仕方を見つけたり，日常生活における運動の生かし方を整理したりしている。 ・体ほぐしの意義をふまえて活動を選んだり，体力の要素や体力を高める運動の理論と方法を，生活に結びつけて見つけたら，運動の心身にわたる効果を実技の経験から整理したりしている。	/	・運動の特性と学び方では，特性に応じて課題設定の仕方や解決の仕方が異なっていることや練習に伴って発生しやすいけが，スポーツ障害への対処の仕方，予防の方法を知っている。 ・体ほぐし・体力の意義と運動の効果では，手軽な運動や律動的な運動の意義と行い方，体力の意義と高め方，運動と心身の働きとの関係や運動の心身にわたる効果を知っている。

保健分野

1 保健分野の目標

- (1) 個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 保健分野の評価の観点の趣旨

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
自他の心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。	健康・安全の意義を理解するとともに、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1) 「心身の機能の発達と心の健康」(第1学年)

【学習指導要領の内容】

- ア 身体機能は年齢とともに発達すること。
 イ 思春期には、内分泌の働きによって生じられる機能が成熟すること。また、こうした変化に対応した適切な行動が必要となること。
 ウ 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活体験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。
 エ 心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、心身の調和を保つことが大切であること。また、欲求やストレスへの対処の仕方に応じて、精神的、身体的に様々な影響が生じることがあること。

【「心身の機能の発達と心の健康」の評価規準】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
年齢に伴う身体機能の発達や心身の調和と心の健康などについて関心をもち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したりしながら課題を見つけ、意欲的に学習しようとしている。	年齢に伴う身体機能の発達や心身の調和などについて、自分の知識や経験を、資料、仲間の意見や考えなどを元に、課題の設定や解決の方法を考え、判断できる。	心身の機能は生活体験などの影響を受けながら発達すること、身体と精神は互いに密接な関係にあることを科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。

【「心身の機能の発達と心の健康」の評価規準の具体例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 心身の機能の発達や、心の健康などについて、自分の経験や、資料などをもち、課題を見つけようとしている。 心身の機能の発達や、心の健康などについて、教 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の機能の発達や心の健康などについて、自分の知識や経験等をもとに、問題点を見つけることができる。 心身の機能の発達や心の健康などについて、資料 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢に伴う身体各器官の発達の傾向や性差、個人差などを知っている。 思春期に起こる心身の変化や思春期が生殖機能の成熟や自己の認識が深ま

<p>科書などの資料から課題を解決するための情報を集めたり，課題について調べようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 心身の機能の発達や，心の健康などについて，仲間の考えや意見を聞いたり，集めた資料を活用したりして，自分の意見を発表しようとしている。 	<p>などを元に予想したり，整理したりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 心身の機能の発達や心の健康などについて，学習したことを日常生活に当てはめることができる。 	<p>る重要な時期であることを知っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 心の健康を保つため，心身の調和を保つことの大切さや欲求やストレスに適切に対処する方法を知っている。
---	---	---

(2) 「健康と環境」(第2学年)

【学習指導要領の内容】

- ア 身体には，環境に対してある程度まで適応能力があること。また，快適で能率のよい生活を送るための温度，湿度や明るさには一定の範囲があること。
- イ 飲料水や空気は，健康と密接なかわりがあることから，衛生的な基準に適合するよう管理する必要があること。
- ウ 人間の生活によって生じた廃棄物は，衛生的に，また，環境の保全に十分留意し，環境を汚染しないように処理する必要があること。

【「健康と環境」の評価規準】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<p>身体的环境に対する適応能力，空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理と人間の健康について関心を持ち，仲間と協力して資料を集めたり，意見を交換したりしながら課題をみつけ，意欲的に学習しようとしている。</p>	<p>身体的环境に対する適応能力，空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理と人間の健康について，自分の知識や経験，資料，仲間の意見や考えなどをもとに課題を設定し，適切な課題解決の方法を考え，判断できる。</p>	<p>人間の健康は環境と深くかかわって成立しており，身体には環境に対する適応能力があること，空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理が必要であることを科学的に理解し，日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。</p>

【「健康と環境」の評価規準の具体例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 健康と環境とのかかわりについて資料を見たり，自分の日常生活を振り返りながら課題を発見しようとしている。 教師や仲間と共に活動したり，教科書などの資料を読んだりして課題の解決に取り組み，課題について調べようとしている。 教科書などの資料を元に，自分の考えや意見をまとめ，発表しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康と環境について，自分の日常生活等を振り返り，問題点を見つけることができる。 健康と環境について，自分の経験や資料などを元に，予想したり，整理したりすることができる。 健康と環境について学習したことを日常生活に当てはめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間の健康は環境と深くかかわって成立しており，身体には環境に対する適応能力があることを知っている。 人間の生命の維持や健康に密接なかわりのある空気・飲料水の条件について知っている。 心身の健康を保持増進するため，生活に伴って生じる廃棄物を適切に処理し，環境を衛生的に保つ必要があることを知っている。

(3) 「傷害の防止」(第2学年)

【学習指導要領の内容】

- ア 自然災害や交通事故などによる傷害は、人的要因や環境要因などがかわって発生すること。また、傷害の多くは安全な行動、環境の改善によって防止できること。
 イ 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。

【「傷害の防止」の評価規準】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
自然災害及び交通事故などによる傷害の発生要因やその防止対策、応急手当について関心をもち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したりしながら課題を見つけ、意欲的に学習しようとしている。	自然災害及び交通事故などによる傷害の発生要因やその防止対策、応急手当について、自分の知識や経験、資料、仲間の意見や考えなどを元に、科学的に考え、選択すべき行動を判断できる。	自然災害及び交通事故などによる傷害の発生要因やその防止対策、応急手当の意義や手順について、課題解決を通して科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。

【「傷害の防止」の評価規準の具体例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・傷害の防止について、資料を見たり、自分の日常生活を振り返りながら課題を発見しようとしている。 ・教師や仲間と共に活動したり、教科書などの資料を読み、課題について調べたり、応急手当の実習に取り組んでいる。 ・教科書などの資料元に、自分の考えや意見をまとめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・傷害の防止について、自分の経験や地域の生活等を振り返り、問題点を見つけていることができる。 ・教師や仲間と共に、自分の経験や教科書などの資料、話し合いなどを元に、予想したり、分析したりすることができる。 ・学習したことを元に、日常生活に当てはめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害や交通事故などによる傷害の発生要因や防止対策について知っている。 ・応急手当の意義と方法について知っている。

(4) 「健康な生活と疾病の予防」(第3学年)

【学習指導要領の内容】

- ア 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。さらに、疾病は主体の要因と環境の要因がかかりあって発生すること。
 イ 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養および睡眠の調和のとれた生活が必要なこと。また、食事の量や室の偏り、運動不足、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れは、健康を損なう原因となること。
 ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用等の行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、そのような行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それらに適切に対処する必要があること。
 エ 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。
 オ 個人の健康と集団の健康とは密接な関係があり、相互に影響し合うこと。また、健康を保持増進するためには、保健・医療機関を有効に利用することが大切であること。

【「健康な生活と疾病の予防」の評価規準】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
健康の保持増進のために必要な生活行動や疾病の予防について関心をもち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したりしながら課題をみつけ、意欲的に学習しようとしている。	健康の保持増進のために必要な生活行動や疾病の予防について、自分の知識や経験、資料、仲間の意見や考えなどを元にして、科学的に考え、選択すべき行動を判断できる。	健康の保持増進のために必要な生活行動や疾病の予防について、科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。

【「健康な生活と疾病の予防」の評価規準の具体例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・健康の保持増進のために必要な生活行動や疾病の予防について、資料を見たり、自分の日常生活を振り返りながら課題を発見しようとしている。 ・教師や仲間と共に活動したり、教科書などの資料を読んだりして、課題について調べようとしている。 ・教科書などの資料を元に自分の考えや意見をまとめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活の仕方や疾病の予防について、自分の知識や日常生活等を振り返り、問題点を見つけることができる。 ・健康な生活の仕方や疾病の予防の方法について、資料を元に、予想したり、整理したりすることができる。 ・健康な生活や疾病予防について学習したことを日常生活に当てはめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康は主体と環境から成り立ち、疾病はそれらの要因がかかわりあって起こることを知っている。 ・健康の保持増進には、生活習慣が深くかかわっていること、それが主な要因となって起こる疾病やその予防の仕方について知っている。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用の健康への影響と乱用してはいけないことを理解し、知識を身に付けている。 ・感染症の要因とその予防の方法について知っている。 ・個人の健康と集団の健康は密接な関係があること、健康を保持増進するためには、保健・医療機関の有効な利用が必要であることを知っている。

第3 単元の評価に関する事例

体育分野

ここでは、ダンス(第3学年)における創作ダンスについて、メインテーマに対しイメージを出し合い、作品をつくり高めながら仕上げ、練習や発表を工夫して楽しむ事例として「ダンス(創作ダンス)」(事例1)を紹介する。

事例1 単元名 「ダンス(創作ダンス)」(13時間)

第3学年 月

1 単元の目標

- (1) 思い切り動く・感じを込めて動くなどの楽しさや喜びを味わおうとする。また、互いの動きのよさや感じ方や表現のよさなどを認め合い、動きをよりよくしようと進んで練習したり発表したりしようとする。
- (2) 訴えることをはっきりさせて、よいところを感じ取って成果を確かめ合ったり、意見を出し合ったりすることができるようにする。
- (3) イメージにふさわしい動きで自由に踊ったり、まとまりのある表現や簡単な作品をつくって感じを込めて踊ったりすることができるようにする。
- (4) 創作ダンスの特性と発表会の役割の決め方や進め方、鑑賞の仕方をあげることができるようにする。

2 単元の評価規準

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
内容との ま評 と価 ま規 り準	ダンスの特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるように進んで取り組もうとする。また、互いのよさを認め合い、協力して練習したり発表したりしようとする。	グループの課題や自分の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方や発表の仕方を工夫している。	自分の感じ方や工夫を率直に表現し、感じを込めて踊ったり、みんなでかかわりをもって踊ったりすることができる。	ダンスの特性や学び方、歴史を理解するとともに、発表の仕方や鑑賞の仕方を理解し、知識を身に付けていく。
単 元 の 評 価 規 準	・思い切り動く、感じを込めて動くなどの楽しさや喜びを味わおうと、進んで練習したり発表したりしようとする。 ・互いの動きのよさ、感じ方や表現のよさなどを認め合い、動きをよりよくしようと協力しながら取り組もうとする。	・グループや自分に適した課題をもち、その解決を目指して、テーマからイメージを膨らませたり、仲間とリズムに乗ったりして練習し、動きをつくりだしている。 ・見せ合いや発表では、意見を出し合い、よいところを感じ取って成果を確かめ合っている。 ・練習や計画・発表に、学習ノート等の記録も利用している。	・イメージにふさわしい動きや体で感じたりリズムなどを率直に表現し、大きな動き、リズムに乗った動きなどで感じを込めて踊ったり、みんなで動きを合わせる、調子を合わせるなど仲間とのかかわりをもって人に伝えるように踊ったりすることができる。	・ダンスは、個人や集団で踊り、表現したり交流したりすることが楽しい運動であるという特性や、学習の進め方、フォークダンスの由来を知っている。 ・いろいろなダンスの、発表の仕方やよい動き、共感、感動するなどの鑑賞の仕方を知っている。
学具 習体 活の 動評 に価 お規 け準 る	ダンスを楽しんでいて、ためらいがなく、思い切り動く、感じを込めて動く楽しさを味わおうとする。 自分や仲間の動きやテーマのとらえ方のよさを認め合おうとする。 簡単な作品づくりに行き詰まっても、あきらめないうで、作品を完成させようとする。	テーマから思いつくことをいくつか出して、イメージを膨らましている。 選択したテーマで、表現したいことを、中心場面からひとまとまりになるよう動き方を見つけている。 題材のイメージが人に伝わるような、作品の運びをつくり出している。 自分や仲間の表現やとらえかたのよさを、仲間との見せ合いを通して確認している。	イメージが人に伝わるように、体を十分に使った動きで踊ることができる。 題材のイメージが、見ている人に伝わる動きで踊ることができる。 表したいイメージが伝わるように作られた簡単な作品を踊ることができる。	創作ダンスは、イメージを自由に表現し踊るものであることを知っている。 発表会の役割の決め方や進め方を知っている。 どんなイメージが強く感じられたか、どんな動きの工夫がよかったかを感じながら鑑賞する仕方を知っている。

発表会では、どんなイメージが強く感じられたか、どんな動きの発想がよかったかなどを認め合いながら協力しようとする。			
--	--	--	--

3 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	学習活動における具体的評価規準				評価方法等
		運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解	
学習 1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(1時間) ・単元の目標を知る ・創作ダンスの特性を知る ・学習の進め方を知る ・学習の見通しをもつ ・グループ編成 				<p>創作ダンスは、イメージを自由に表現し踊るものであることを知っている。 (創作ダンスは、イメージを自由に表現し踊るものであることを説明できる。)</p>	<p>< > 内の方法を手がかりに例えば次のような兆候から「おおむね満足できる」状況と判断する</p> <p>関心・意欲・態度 <即興・創作・相互評価時の活動の観察及び学習ノート> ノードに「思い切り感じたまま動いて楽しい」「みんなでノリノリで動いて楽しい」というような記述がある等 相互評価の場面で、自然に拍手をしたり、「この動き、いいよね」「感じがよく分かるよね」等の発言をしたりする等。 話し合いが停滞したときも、「まず、ここから即興で動いてみない?」「この群とこの群を合体させようか」とあきらめないで動くこととする等。 学習ノートに各グループのよい点を指摘する記述がある等</p> <p>思考・判断 <グループ活動の観察及び学習ノート> いろいろなテーマ、例えば「朝のひとつき」が示されたとき、「忙しい」「眠い」「ゆったり」とイメージすることを出せる等。 作品の中心を例えば「木が枯れていく場面」「木が苦しんでいる場面」にし、木が力をなくしていく様子を表す動きを見つけている等。 例えば「酸性雨で木が枯れていく様子から、環境問題の深刻さを訴える」作品で、どうしたら悲惨な様子が伝わるかを、「元気だった木が、少しずつ力をなくしていけばいい」「枯れてしまった木が、復活するところまで表現しよう」と考えている等。 テーマのとりえ方のここがおもしろい、動き方のここが斬新、といったことを言ったりノートに書いたりする等</p> <p>技能 <動きの観察> 腕や脚を大きく動かした動きで動く、よい表情で動く等 そのものと人に分かるように動く、動きを見た人がテーマのイメージを言える等 例えば、「酸性雨によって枯れていく木」になりきって、悲しい木の様子が伝わるような動きで動く等</p> <p>知識・理解 <ノート・評価問題> 創作ダンスの特性を「イメージを自由に表現するもの」とまとめることができる等 発表会の役割を「司会」「照明」「プログラム」「舞台」に分けてまとめることができる等 鑑賞の仕方として「強く感じられたイメージを感じながら」「動きの工夫のよさを感じながら」と書くことができる等</p>
学習 2 5時間 (4時間)	<p>ねらい いろいろなテーマによる表現 ・即興で楽しく動いてみる 「リズムに乗って」「威張った感じで、浮かれた感じで動いてみよう」</p> <p>・そのものになりきって、思いついた動きですぐに動いてみる 「象になるぞ!、イルカになるぞ!、チータになるぞ!」</p> <p>・テーマから連想した動きで動いてみる 「日常動作を手がかりに」 ・テーマを選んで短いひとまとまりの動きをつくってみる</p>	<p>ダンスを楽しんでいて、ためらいがなく思い切り動く、感じを込めて動く楽しさを味わおうとする。 (思い切り動いていない友達にも声を掛けたり、自ら進んで練習したり活動したりしようとする)</p>	<p>テーマから思いつくことをいくつか出して、イメージを膨らませている。 (自分や自分たちで思いついたイメージを、比較している)</p>	<p>イメージが人に伝わるように、体を十分に使った動きで踊ることができる。 (イメージが人に伝わるように、そのものに入り込んで踊ることができる)</p>		
学習 6 10時間 (5時間)	<p>ねらい 簡単な作品の創作 ・「環境を守れ!」をメインテーマに、イメージを出し合い、テーマを選択する。</p> <p>・テーマから何を訴えていくのかをはっきりさせそれを中心にして作品をつくる</p> <p>・「終わり方」「場面転換」を工夫し、互いに見せ合って、作品を高めながら仕上げる。</p>	<p>自分や仲間の動きやテーマのとりえ方のよさを認め合おうとする。 (よかったところを認め合い、以後の互いの活動を高めようとする)</p> <p>簡単な作品づくりに行き詰まっても、あきらめないで、作品を完成させようとする。 (最後までやり遂げて作品を完成させようとする)</p>	<p>選択したテーマで、表現したいことを、中心場面からひとまとまりになるよう動き方を見つけている。 (中心場面の動き方を組み合わせて構成している)</p> <p>題材のイメージが人に伝わるような、作品の運びをつくり出している。 (題材のイメージが人に伝わるように、作品全体の動きの運びを組み立てている)</p>	<p>題材のイメージが、見ている人に伝わる動きで踊ることができる。 (題材のイメージが伝わるメリハリのある動きで踊ることができる)</p>		
まとめ 11 13時間 (3時間)	<p>・作品発表会の役割を決める</p> <p>・作品発表会を行い、学習のまとめをする</p>	<p>発表会では、どんなイメージが強く感じられたか、どんな動きの発想がよかったかなどを認め合いながら協力しようとする。 (発表会では、お互いの作品のよさを認め合い、仲間に働きかけるなどして積極的に協力しようとする)</p>	<p>自分や仲間の表現やとりえかたのよさを、仲間との見せ合いを通して確認している。 (仲間との見せ合いを通して確認したり、見通しがもっている)</p>	<p>表したいイメージが伝わるように作られた簡単な作品を踊ることができる。 (表したいイメージがよく人に伝わるよう、作品に入り込んで踊ることができる)</p>	<p>発表会の役割の決め方や進め方を知っている。 (発表会の役割の決め方や進め方を説明できる。)</p> <p>どんなイメージが強く感じられたか、どんな動きの工夫がよかったかを感じながら鑑賞する仕方を知っている。 (創作ダンスの特性や発表や鑑賞の仕方を説明できる)</p>	

注)「単元の評価規準との関連」及び「評価方法等」の欄にある、「『 』の『ゴチック』」で表した部分は、「十分満足できる」状況と判断する際の手がかりである。

4 観点別評価の進め方

- (1) この事例は、評価をする際の単元の区分を、「学習」と「学習（ねらい）」、「学習（ねらい）」、「まとめ」の3つに分けて行う例である。

この事例においては、学習活動における具体的評価規準を、「運動への関心・意欲・態度」が4個、「運動についての思考・判断」が4個、「運動の技能」が3個、「運動について知識・理解」が3個、それぞれ設定している。なお、評価をするに当たっては、基本的に毎時間の適切な場面で行うものの、4つの観点について、すべての時間にわたって行うことは無理があるので、この事例においては、学習段階によって重点を定めて行った。

- (2) 単元の展開中の具体的評価規準に照らし、「A十分満足できる」、「Bおおむね満足できる」、「C努力を要する」のいずれに当たるのかを判断し、記録した。なお、「十分満足できる」と「おおむね満足できる」の中でも実現状況が低いと判断される場合には、それぞれ「AB」、「BC」と記録した。また、「十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの」と判断される場合には「AA」、「努力を要する」と判断されるもののうち、「一層努力を要すると判断されるもの」を「CC」と記録した。
- (3) 「A十分満足できる」状況と判断する際の手がかりについては、「3 指導と評価の計画」の表中に『 』の『ゴチック』で例示している。
- (4) 単元の途中及び総括時に、「努力を要する」状況と判断した子どもへの指導の手だてについては、次のことに留意する。

- (1) 「努力を要する」状況と判断した子どもに対しては、次への学習活動が上向きになるように働きかけることが大切である。そのためには、その子どもが意欲をもったり、課題がもてるような働きかけをする。その際、どの観点の指導をするのかを明確に意識することや、指導を要すると判断した観点における学びの姿を明確にすることなどが求められる。手だてを講じる際には、一つの観点や項目のみを問題にするのではなく、他の観点との関連を図って行うことが大切である。また、教師自身も指導の結果を自己評価（又は子どもの評価を参考に）して次の指導に生かすことが大切である。

- (2) 「運動の関心・意欲・態度」では、例えば、「恥ずかしい」という思いが先行してダンスの持つ楽しさや喜びを味わおうとすることができないことが考えられる。このような場合には、「恥ずかしい」と思う気持ちを受け入れること、そして、誰もが経験するものであることを共有する。また、「恥ずかしい」という思いは、「見られるのが恥ずかしい」、「みんなと違っていたら恥ずかしい」といった、個別に抱えている理由を有していることもあるので、一人一人の生徒の実態に応じた指導が大切となる。

指導の手だては、どのようにしたら恥ずかしい思いや不安が軽減されるか、思い切って動くことで心地よさを感じるか、次の学習への意欲がもてる課題は何かといったことに働きかける。例えば、教師と一緒に（手を引くなどして）活動する、仲間とともに思い切って動くように働きかける、動けたことそのものをほめるなどが考えられる。また、本人と周囲のコミュニケーションの力を高めるために教師が支援しておくことも大切なことである。すなわち、仲間とのかかわり方や働きかけの仕方を共有することや、それまで意欲をもてなかった子どもが活動して動き始めたら、それを受け入れ、共に学ぶ仲間として活動していくことを求めることなどが考えられる。

- (3) 「運動についての思考・判断」では、例えば、観察の「目の付けどころ」がつかめない、「目の付けどころを誤解している」状態にいたることが考えられる。「目の付けどころ」をつかめるようにするには、「顔の向き」「指先」「肘の位置」といった体の部分や、「象のような動き」や「イルカのような動き」といったイメージの部分をもとに具体的な取り上げることなどが考えられる。「目の付けどころを誤解している」状態の場合には、本人が「どこで誤解しているか」を自覚させることが必要になる。これには、「どんなイメージを持っているか」「持ったイメージを文章や図面等で客観的につかむ」などについて確認することなどが考えられる。

指導の手だては、思考・判断で学ぶ学習の課題が、その子どもにとって、見えたり、発見したりすることができるようにするなどが考えられる。例えば、子どもにとっての具体的な課題をあげてみたり、あげた課題を自分で並べ替えることによって、違いを見つけたり、順序づけたり、選んだりできるようにして、学習の早さや難易度がコントロールできるようにすることなどが考えられる。

- (4) 「運動の技能」では、例えば、「動きのイメージにズレがある」のか、それともイメージは合っていて「動きが不十分である」のかといったことが考えられる。このような場面の技能を身につけていくに当たっては、その子どもにとって「やってみよう」「できそうだ」という運動の選び出しや提示が大切になる。練習を積み重ねるにしても、動きのイメージの修正が必要なのか、それとも今のままで練習を積み重ねることによいのかといったアドバイスは重要であり、その後の技能の獲得に大きな意味をもつ。動きのイメージのズレを修正するには、実際に指導者の手でつかんで動かす、引っ張るなどして修正することで埋めていくことが大切になるであろう。それには、動きの中で生じる体重のかかり方や体の部分の重さを感じる重力、圧力、体で感じる痛みといったものに働きかけることなどが考えられる。動きが不十分な場合には、「指先まで伸ばしてみよう」「ターンやジャンプをもっと大きく（高く）したら」といった、具体的な働きかけをすることなどが考えられる。

指導の手だては、教師が、その子どもにとって成功できる技能を提示する、あるいは、本人からの提案を受け入れるなどが考えられる。例えば、「もともとできない」とあきらめている状態に対し、「できそうなこと」を選び出し、本人にとって、実現可能な技能の目標を立てるといったこと

が考えられる。また、個に応じた具体的な指導により、動きのイメージのズレを修正するために場面を止めて位置関係を確認したり、手引き指導をしたりすることにより練習を積み重ね、その結果を評価し、できればに応じて目標の見直しをしていくことなどが考えられる。

(5) 「運動についての知識・理解」では、例えば、ダンスの運動の特性を表す用語が理解できていないような場合が考えられる。このような場合は、身に付いている知識とそうでないものを明らかにすることなどが考えられる。

指導の手だては、身に付いていない用語を言えるようにする。用語が言えたら、それを使って会話ができるようにするなどが考えられる。そして、学習カード等に記入することができるようにしていくことである。場合によっては、単に語句の再現を求めるのではなく、その子どもにとって表現できる言葉や図面などを用いて書き出せるかどうかといったことなどが考えられる。

5 観点別評価の総括

(1) 観点別評価の総括に当たり、具体の評価規準に照らした評価結果を、それぞれ「AA 5.0」、「A 4.0」、「AB 3.5」、「B 3.0」、「BC 2.5」、「C 2.0」、「CC 1.0」と置きかえた。そして、単元の終了時に各観点ごとの合計を求め、平均したもので判断することとし、その際には、「AB」が同数ならば「A」、「BC」が同数ならば「B」という考え方に立った。

(2) 各観点の平均値を観点別評価の総括とする際には次のようにする。

3.5 以上	A
2.5 以上～3.5 未満	B
2.5 未満	C

(3) M君の場合（ここでは、「関心・意欲・態度」と「技能」を例示する）

「関心・意欲・態度」	
ダンスを楽しんでいて、ためらいがなく、思い切り動く、感じを込めて動く楽しさを味わおうとする。……………	C (2.0 点)
自分や仲間の動きやテーマのとらえ方のよさを認め合おうとする。……	B (3.0 点)
簡単な作品づくりに行き詰まっても、あきらめないうで、作品を完成させようとする。……………	AB (3.5 点)
発表会では、どんなイメージが強く感じられたか、どんな動きの発想がよかったかなどを認め合いながら協力しようとする。……………	A (4.0 点)
「技能」	
イメージが人に伝わるように、体を十分に使った動きで踊ることができる。……………	BC (2.5 点)
題材のイメージが、見ている人に伝わる動きで踊ることができる。……	A (4.0 点)
表したいイメージが伝わるように作られた簡単な作品を踊ることができる。……………	AA (5.0 点)

平均値の算出と単元の総括

「関心・意欲・態度」

$$(2.0 + 3.0 + 3.5 + 4.0) \div 4 = 3.125 \quad (3) \text{より} \text{「B」} \text{となる}$$

「技能」

$$(2.5 + 4.0 + 5.0) \div 3 = 3.833 \quad (3) \text{より} \text{「A」} \text{となる}$$

(4) この例に示す、記録の付け方及び数値化の仕方、数値から観点別評価に総括する例は、便宜的に定めているものであり、この事例と同じ手順で行うにしても、どのような区切りとするのかは、各学校において検討して定めることが肝要である。

(5) この例においては、単元の評価規準を4つの観点で14個の規準を設定しているが、単元のどの場面でいくつ設定するかといったことについては、運動の特性や生徒の実態に応じて工夫することが大切である。

この外にも、単元における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。

保健分野

ここでは、心と体を一体としてとらえることを重視して内容の充実を図り、学習の過程と定期テストを総合的に評価するための工夫を行った事例、第1学年「心身の機能の発達と心の健康」(事例2)を紹介する。

事例2：単元名 「心身の機能の発達と心の健康」(12時間)

第1学年 7月

1 単元の目標

- (1) 心身の機能の発達や心の健康について関心を持ち、仲間と協力しながら課題を見つけ、意欲的に取り組むことができるようにする。
- (2) 心身の機能の発達や心の健康について学習を元に、課題の設定や解決の方法を考え、判断することができるようにする。
- (3) 心身の機能の発達の仕方や身体と精神の密接な関係について理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けることができるようにする。

2 単元の評価規準

	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
内 ご 容 と の の ま 評 と 価 ま 規 り 準	年齢に伴う身体機能の発達や心身の調和と心の健康などについて関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したりしながら課題を見つけ、意欲的に学習しようとしている。	年齢に伴う身体機能の発達や心身の調和などについて、自分の知識や経験、資料、仲間の意見や考えなどを元に、課題の設定や解決の方法を考え、判断している。	心身の機能は生活経験などの影響を受けながら発達すること、身体と精神は互いに密接な関係にあることを科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。
単 元 の 評 価 規 準	年齢に伴う身体機能の発達や心身の調和と心の健康などについて関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したりしながら課題を見つけ、意欲的に学習しようとしている。	年齢に伴う身体機能の発達や心身の調和などについて、自分の知識や経験、資料、仲間の意見や考えなどを元に、課題の設定や解決の方法を考え、判断している。	心身の機能は生活経験などの影響を受けながら発達すること、身体と精神は互いに密接な関係にあることを科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。
学 習 活 動 に お け る 具 体 の 評 価 規 準	心身の機能の発達や心の健康などについて、自分の経験や資料などを元に、課題を見つけようとしている。 心身の機能の発達や心の健康などについて、教科書などの資料から課題を解決するための情報を集めたり、課題について調べようとしている。 心身の機能の発達や心の健康などについて、仲間の考えや意見を聞いたり、集めた資料を活用したりして、自分の意見を発表しようとしている。	心身の機能の発達や心の健康などについて、自分の知識や経験等を元に、自分の行動を振り返り問題点を見つけることができる。 心身の機能の発達や心の健康などについて、資料などを元に予想したり、整理したりすることができる。 心身の機能の発達や心の健康などについて、学習したことを日常生活に当てはめることができる。	年齢に伴う身体の各器官の発達の傾向や性差、個人差などがあることについて知っている。 思春期に起こる心身の変化や思春期が生殖機能の成熟や自己の認識が深まる重要な時期であることを知っている。 心の健康を保つため、心身の調和を保つことの大切さや欲求やストレスに適切に対処する方法を知っている。

3 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	単元の評価規 準との関連	評価方法等
1	<p>ねらい 身体の各器官は年齢とともに発達し，発達には順序性や発達の時期の違い，性差，個人差があることを理解し，自分のからだの変化を受け止め，望ましい発達を図るためにはどのような生活を送ったらよいかを考えさせ，実践への意欲を持てるようにする。</p> <p>【学習活動】</p> <p>1) 人間の身長や体重が生まれてから発育が止まるまでの間に同じように増えるのではないことを確認し，本時の学習への意欲を持つ。 ・生まれてから1年間の赤ちゃんの体重と身長を12年間続けたらどのくらいの体重と身長になるか計算する。</p> <p>2) 男女の「身長と体重の年間増加量」を比較し，男女の発育の違いを確認する。</p> <p>3) スキャモンの発育曲線から各器官の発育の順序性について考える。 ・それぞれの器官はどの発育曲線か班で考え，発表する。</p> <p>4) 中学生期の発育・発達の特徴から毎日の生活を考える。 ・スキャモンの発育曲線の中学生期の部分に注目し，毎日の生活を送る上で心がけることはどんなことか班でできるだけたくさん出し，発表する。</p> <p>5) 学習のまとめをする。 ・自分の生活を振り返り，これからの生活に生かしていきたいことや努力することは何かをまとめ，発表し合う。 ・学習の感想を書く。</p>	<p>ウー</p> <p>アー イー</p> <p>イー イー</p> <p>イー</p>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート 話し合いの観察</p> <p>ワークシート 話し合いの観察</p> <p>ワークシート 発表 イ，ウについてはペーパー テストも実施</p>
2	<p>ねらい 呼吸器・循環器の発達のしかたには，からだの発育や運動経験が大きく影響することを理解し，望ましい発達を図るためにはどのような生活を送ったらよいかを考え，実践への意欲を持てるようにする。</p> <p>【学習活動】</p> <p>1) 自分と幼児の脈拍数・呼吸数の比較から呼吸器・循環器の発達を考え，本時の学習の見通しを持つ。</p> <p>2) 運動後の呼吸数・脈拍数の変化から呼吸器・循環器のしくみを考える。</p>	<p>ウー</p>	<p>ワークシート</p>

	<p>3) 呼吸器・循環器をより発達させるために生活の中でできることはどんなことが考える。 ・班でできるだけたくさん出し，発表する。</p> <p>4) 学習のまとめをする。 ・自分の生活を振り返り，これからの生活に生かしていきたいことや努力することは何かをまとめ，発表し合う。 ・学習の感想を書く。</p>	<p>イー アー</p> <p>イー</p>	<p>話し合いの観察</p> <p>ワークシート 発表 イ，ウについてはペーパー テストも実施</p>
3	<p>ねらい 思春期にはホルモンの働きにより，生殖器の発育とともに生殖機能が発達して，新しい命を生み出すからだに成長することを理解し，自分の変化を肯定的に受け止められるようにする。</p> <p>【学習活動】</p> <p>1) 思春期の男性と女性のからだに変化について気づいたことを出し合い，本時の学習の見通しを持つ。</p> <p>2) 月経の起こるしくみを確認する。</p> <p>3) 射精の起こるしくみを確認する。</p> <p>4) 自分の生命の誕生を振り返り，自分が新しい生命を誕生させられるからだに成長していることを考える。</p> <p>5) 学習のまとめをする。 ・これからの自分の生活に生かしていきたいことや心がけていくことは何かをまとめ，発表し合う。 ・学習の感想を書く。</p>	<p>イー</p> <p>ウー</p> <p>ウー</p> <p>アー</p> <p>イー</p>	<p>話し合いの観察</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>観察 発表</p> <p>ワークシート 発表 イ，ウについてはペーパー テストも実施</p>
4	<p>ねらい 生殖にかかわる機能の成熟に伴い，性衝動が生じたり，異性への関心が高まることを理解し，異性を尊重する気持ちを持つとともに，情報への適切な対処や適切な行動選択ができるようにする。</p> <p>【学習活動】</p> <p>1) 作文やアンケート結果から思春期になると異性への関心や異性への接近欲が高まってくることを確認，本時の学習の持つ。</p> <p>2) なぜ，初経や精通の年齢がむかしと比べると早くなってきたのかを考える。</p> <p>3) 「身体面の発育の早期化」と「精神面や経済的な自立はゆっくり成長させる方向への時代の動き」とのギャップは</p>	<p>ウー</p> <p>イー</p> <p>アー</p>	<p>発表 ワークシート</p> <p>観察 発表</p> <p>ワークシート 発表</p>

	<p>どんなところにあらわれるか考える。</p> <p>4) 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの自分の生活に生かしていきたいことや心がけていくことは何かをまとめ、発表し合う。 ・学習の感想を書く。 	イー	<p>観察 ワークシート 発表 イ、ウについてはペーパーテストも実施</p>
5	<p>ねらい</p> <p>心のはたらきには知的機能・情意機能・社会性などがあり、これらはさまざまな生活経験や学習などの影響を受けながら発達することを理解し、積極的に人と関わるなど、これからの生活に生かす意欲を持てるようにする。</p> <p>【学習活動】</p> <p>1) 「オオカミに育てられた少女の話」を読み、自分たちとの成長の違いを出し合い、本時の学習の見通しを持つ。</p> <p>2) 何によって違いが起こったのかグループで考えたことをもとに、知的機能・情意機能・社会性などの心のはたらきや発達について理解する。</p> <p>3) 心の発達のために大切なことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情をコントロールしたり、じょうずに表現して人に伝えられるようになるために必要なことは何か。 ・社会生活をしていくために必要な態度や行動のしかたはどんなことか。 <p>4) 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの自分の生活に生かしていきたいことや心がけていくことは何かをまとめ、発表し合う。 ・学習の感想を書く。 	<p>アー</p> <p>ウー</p> <p>イー</p> <p>イー</p>	<p>話し合いの観察</p> <p>発表 ワークシート</p> <p>観察 発表</p> <p>ワークシート 発表</p>
6	<p>ねらい</p> <p>中学生期の心の発達の特徴について考え、自分らしさを形成していくための課題をみつけ、解決のための意欲を持てるようにする。</p> <p>【学習活動】</p> <p>1) 自分を紹介する文を「小学生の頃のわたしは～であった。今のわたしは～である。」という形式でそれぞれ5通り書き、小学生の頃と今の自分を比べ、グループで発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生期の心の特徴（自己の対象化，親からの心理的な独立，人間関係の変化，異性への関心の高まり）に気づく。 <p>2) 中学生期はおとなへの過渡期であることを確認し、グループで自分らしさを形成のための課題を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の心の発達の特徴で特に関心を持ったことはどんなことか。 ・中学生の悩みや不安にはどんなものがあるか。 ・今，中学生について社会で問題となっていることや学校生 	<p>アー</p> <p>イー</p>	<p>ワークシート 観察</p> <p>観察</p>

	<p>活で気になっていることはどんなことか。</p> <p>3) 課題解決のための見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合い，解決のための手立てや方法，役割分担等を行う。 	アー	観察
7 8	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしさを形成していくための課題の解決のために，自分を見つめたり，仲間と意見交換をしたり，協力して資料を集めたりしながら工夫して取り組めるようにする。 <p>【学習活動】</p> <p>1) グループごとに課題の解決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換をしたり，資料を集めたりする。 <p>2) わかったことをまとめ，発表の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B4用紙1枚にまとめる。 ・発表時の役割分担や内容の確認をする。 	アー イー	観察
9	<p>ねらい</p> <p>課題についてのまとめを班で発表したり，発表を聞いたりしながら，自己形成にとってさまざまな生活経験や多くの人とのかかわりが大切であることを理解し，実践への意欲を持てるようにする。</p> <p>【学習活動】</p> <p>1) グループごとにまとめたことを発表する。</p> <p>2) 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの自分の生活に生かしていきたいことや心がけていくことは何かをまとめ，発表し合う。 ・学習の感想を書く。 	アー イー ウー	観察 発表 ワークシート 発表 イ，ウについてはペーパーテストも実施
10	<p>ねらい</p> <p>欲求には一次的欲求と二次的欲求があり，二次的欲求は中学生期に大きく発達することを理解し，欲求が満たされなかった時の対処の方法について考える意欲を持てるようにする。</p> <p>【学習活動】</p> <p>1) 「～したい。」という形式で自分がしたいことを10項目挙げ，欲求についての関心を持つ。</p> <p>2) 資料を読み，グループでこの男の欲求を種類別にまとめ，発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな規準で分類したか。 	アー	観察 発表

ある男が隠された金塊を探し出しました。男は大喜びで帰り道を急ぎます。ところが道に迷い、砂漠へ踏み込んでしまいました。行けども行けども砂の海。太陽は容赦なく照り付けます。「ゆっくり休みたい」男はそう思いましたが、早くこの砂漠から抜け出したい一心で歩きつづけた。

疲れきった男は重い金塊を捨ててしまおうかとも思いました。しかし、「この金塊で豪華な生活をして人からうらやましがらりたい。貴族の仲間入りをしたい。」という思いが捨てきれず、金塊を背負って歩きつづけたのです。

とうとう水が底をついてしまいました。「水が飲みたい」、頭の中ではそれが繰り返されるばかりです。フラフラの体はもう金塊の重さに耐えきれなくなり、「命だけでも助かりたい」という思いから、ついに金塊を捨ててしまったのです。

もうだめかと思った時、幸運にもオアシスが目の前に現れました。命だけは助かったのです。

3) 欲求の分類から 一次的欲求と二次的欲求の発達の違いや二次的欲求が中学生頃から著しく発達することを確認し、まとめる。

イー
ウー

発表
ワークシート

11

ねらい

班での話し合いや発表を聞いたりしながら、欲求不満の解消にはいろいろな方法があることを知り、さまざまな欲求不満への対処を経験し、積み重ねることで適切な対処の方法が身についていくことを理解し、実践への意欲を持てるようにする。

【学習活動】

1) 資料から、欲求が満たされなかった時のキツネの他の対処の方法についてできるだけたくさん出し、発表する。

アー

発表
ワークシート

キツネとブドウ -イソップ童話より-

おなかのすいたキツネが、柵から下がっているブドウの房を見つけました。取ろうとして飛び上がりましたが高く届きません。どうしても取れないとわかると、キツネは「まだ青くて食えないや」と捨てぜりふを言って立ち去りました。

2) 中学生期に欲求不満になりやすい欲求について、よりよい対処の方法をグループで考える。

- ・現在持っている欲求についてブレインストーミングする。
- ・1つ選んで対処の方法や対処の方法を考える時に大切なことについて考える。

アー
イー

観察
まとめの用紙

3) 話し合ったことを発表し、意見交換をする。

イー

発表
観察

4) 学習のまとめをする。

- ・これからの自分の生活に生かしていきたいことや心がけていくことは何かをまとめ、発表し合う。
- ・学習の感想を書く。

イー
ウー

観察
ワークシート

12

ねらい

心とからだは互いに密接に関係があり、互いに影響を与え合っていることを理解し、心身の健康を保つには、心の問題にどのように対処すればよいかについて考え、たくましく生

きていく意欲を持てるようにする。 【学習活動】		
1) 自分の経験などをもとに，心の不安や緊張がからだに現れた事例を出し合い，本時の学習の見通しを持つ。	アー	発表
2) 心とからだがどのように関係しているかを教科書等の資料で確認する。	イー	ワークシート
3) 「中学生からの悩み相談カード」にコメントを書き，心の問題にどう対処したらよいか発表し，意見交換をする。	イー ウー	発表 ワークシート
4) 学習のまとめをする。 ・これからの自分の生活に生かしていきたいことや心がけていくことは何かをまとめる。 ・学習の感想を書く。	イ - ウ -	ワークシート イ，ウについてはペーパーテストも実施

ペーパーテストは，本単元の時間の中でなく，定期テストで実施

4 観点別評価の進め方

(1)基本的な考え方

本単元は，心身の機能の発達や心の健康について関心を持ち，思春期の身体や心の状態や密接な関係を理解し，より良く生きていくために日常生活の課題に気づき，解決していく意欲を持てるように評価を進める。そのためには，単元を通して学習活動における具体の評価規準にあげた9つの評価を実施する必要がある。その際，9つ全てを毎時間評価することには無理があるため，取り上げる題材，授業の進め方，学習形態等によって選択したり，重点化するなどの工夫をする必要がある。また，授業の過程の評価と合わせて授業のまとめの評価（定期テスト）も加味して評価を行う必要がある。

「十分満足できる」状況を実現していると判断した子どもの具体的な例

ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
心身の機能の発達や心の健康などについて，自分で資料を集めたり，自分の経験や仲間との意見交換，資料などを元に，課題を見つけようとしている。 心身の機能の発達や心の健康などについて，積極的に仲間などどかかわりを持ち，自分でも工夫して調べようとしている。 心身の機能の発達や心の健康などについて，仲間の考えや意見を聞いたり，集めた資料を活用したりして，自分の意見と比較しながら，よりよい意見に発展させようとしている。	心身の機能の発達や心の健康などについて，自分の知識や経験等を元に，課題を持つことができる。 心身の機能の発達や心の健康などについて，自分で資料を探したり，資料などを元に，予想したり，整理したりして，その傾向や原則を見つけることができる。 心身の機能の発達や心の健康などについて，学習したことを日常生活に当てはめ，適切な行動を選択することができる。	年齢に伴う身体の各器官の発達の傾向や性差，個人差などがあることについて知り，具体例をあげて説明できる。 思春期に起こる心身の変化や思春期が生殖機能の成熟や自己の認識が深まる重要な時期であることを知り，具体例をあげて説明できる。 心の健康を保つため，心身の調和を保つことの大切さや欲求やストレスに適切に対処する方法を知り，学んだ処理の方法を具体例をあげて説明できる。

(2) 評価の方法

- ・授業中の発表や観察は、評価補助簿等を利用し、授業中に目についた生徒を中心に評価規準に照らして評価する。
- ・ワークシートや自己評価カードなど、文章で記述してあるものは、授業後に評価規準に照らして評価する。
- ・保健学習は一般的に週1時間があてられ、単元終了までに長期間を要すること、また、学習形態の違いなどを考慮し、内容の小項目ごとに具体的評価規準に照らして評価し(小評価1～小評価3)、それらを総合して、学習の経過の評価(評価1)とし、評価の記録を蓄積する。その上で、定期テストの評価(評価2)と合わせて、観点別の単元の評価とする。
- ・内容の小項目ごとの評価については、学習内容や学習形態に配慮して次のように行う。

小評価1「身体機能の発達」「生殖にかかわる機能の成熟」
(1時間ごとに完結する授業を行い、各時間を同等に評価する。)

小評価2「精神機能の発達と自己形成」
(課題学習による授業を行い、課題発見からまとめまでの各時間の学習の経過を記録しながら、5時間をまとめて評価する。)

小評価3「欲求やストレスへの対処と心の健康」
(積み上げ型の授業を行い、12時間目は学習のまとめとめととらえ、重点をおいて評価する。)

- ・観点ごとの単元の評価は、関心意欲・態度と思考・判断は評価1に重点をおき、知識・理解は評価2に重点をおいて評価する。
評価1「学習の経過の評価」・・・小評価1～小評価3のまとめの評価。(小評価1～小評価3を同等に評価する)
評価2「まとめの評価」・・・定期テストを行う場合の評価(定期テストにあたって、思考・判断を評価できる問題を出題する等の工夫を行い、知識・理解のみの評価とならないように配慮する。)

(3) 努力を要すると評価した子どもへの指導の手だて

努力を要すると評価した子どもについては、その子どもの状況に即して、より具体的な資料を提示したり、学習の進め方について助言したり、子どもと共に具体的な生活場面を想起したりして学習が円滑に進められるようにする。

「健康・安全への関心・意欲・態度」について

例えば、心身の機能の発達や心の健康について、自分の成長や生活を振り返り、問題を見つけようとしたり、調べたりしようとする子どもについては、個別の具体的な資料や場면을提示したり、一緒に考えたり、励ましたりして関心や意欲を起こさせ、学習に進んで取り組むようにする必要がある。

「健康・安全についての思考・判断」について

例えば、心身の機能の発達や心の健康について、自分の成長や生活を振り返ることができず、問題点を見つけることができない子どもについては、個別の具体的な資料や場면을提示したり、ワークシートなどを使って、問題点を見つけることができるようにする必要がある。

「健康・安全についての知識・理解」について

例えば、心身の機能の発達や心の健康について、用語をあげられる程度に止まっている子どもについては、ワークシートをもう一度見直させ、確認することによって再度整理し、子どもの理解の程度に応じて補足説明をして理解できるようにする必要がある。

5 評価を進める上での留意事項

- (1) 学習活動における具体の評価規準に挙げた9つを毎時間すべて評価することは困難であり、各小項目毎の学習内容等に応じて選択し、単元終了までにバランスよく評価する。
- (2) 全て教師の観察による評価ではなく、ワークシート等を活用し、指導と評価がゆとりを持って実施できるようにする。
- (3) 定期テストの問題は、思考・判断及び知識理解の実現度が評価できるよう、それぞれの観点で、8割以上の正解でA、5割以上の正解でBと判断できるような内容、難易度で作成する。

6 観点別評価の単元の総括の事例 別表を参照すること

(1) 観点ごとの評価決定の手順（観点ごとの評価 a b c の決定）

- ・ 「十分満足」の数が、その観点における学習活動の評価の具体的規準に照らして、評価した回数全体の半数以上で、aとする。（評価例 ）
- ・ 「努力を要する」の数が、その観点における学習活動の評価の具体的規準に照らして、評価した回数全体の半数以上で、cとする。（評価例 ）
- ・ 上記以外は、すべてbとする。
- ・ 学習内容や学習形態に配慮して評価する。
 - 小評価1（第1～4時：一斉学習。各時間を同等に評価する。）
 - 小評価2（第5～9時：課題学習。各時間の学習の経過を記録しながら、5時間をまとめて評価する。）
 - 小評価3（第10～12時：一斉学習（積上げ型）。12時間目は学習のまとめととらえ、2倍に換算して評価する。そして、 が半数以上の場合はa、 が半数以上の場合はc、それ以外はbとする。）（評価例 ）

【参考】

- 評価例 「観点別評価簿」小評価1：別表「観点別評価簿」3の生徒のア、3の生徒のウ、10の生徒のウの場合等
- 評価例 「観点別評価簿」小評価1：別表「観点別評価簿」1の生徒のウ、8の生徒のアの場合等
- 評価例 「観点別評価簿」小評価3：別表「観点別評価簿」2の生徒のイ、7の生徒のア、9の生徒のウの場合等

(2) 観点ごとの単元の評価の総括方法

- ・ 思考・判断は学習過程の評価（評価1）に重点をおき、知識・理解はまとめの評価（定期テスト、評価2）に重点をおいて評価する。ただし、評価1と評価2がAとCの場合はBとする。

この外にも、単元における観点別評価の総括については、様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。

別表

観点別評価簿 (心身の機能の発達と心の健康)

生徒	評価の観点					小評価 1					小評価 2	: 十分満足			: おおむね満足			: 努力を要する		
		1時	2時	3時	4時		5・6・7・8・9時	10時	11時	12時		小評価 3	評価 1	評価 2	観点ごとの 単元の評価					
1	ア関・意・態	--	--	--	--	b					b	--	-	--	a	B	-	B		
	イ思・判	-	--	-	-	b					b	--	-	-	b	B	A	B		
	ウ知・理	--	--	--	--	c	-	-			b	--	--	--	b	B	C	C		
2	ア関・意・態	--	--	--	--	b					a	--	-	--	b	B	-	B		
	イ思・判	-	--	-	-	a					b	--	-	--	b	A	B	A		
	ウ知・理	--	--	-	-	b	-	-			b	--	--	--	a	B	A	A		
3	ア関・意・態	--	--	--	--	a					a	--	-	--	b	A	-	A		
	イ思・判	-	--	-	-	b					b	--	-	-	a	B	B	B		
	ウ知・理	--	--	--	--	a	-	-			a	--	--	--	b	A	A	A		
4	ア関・意・態	--	--	--	--	b					b	--	-	--	b	B	-	B		
	イ思・判	-	--	-	-	b					b	--	-	-	a	B	C	B		
	ウ知・理	--	--	-	-	b	-	-			b	--	--	--	b	B	B	B		
5	ア関・意・態	--	--	--	--	b					a	--	-	--	a	A	-	A		
	イ思・判	-	--	-	-	c					b	--	-	-	b	B	A	B		
	ウ知・理	--	--	-	-	b	-	-			c	--	--	--	b	B	B	B		
6	ア関・意・態	--	--	--	--	a					a	--	-	--	b	A	-	A		
	イ思・判	-	--	-	-	b					b	--	-	-	b	B	B	B		
	ウ知・理	--	--	-	-	b	-	-			a	--	--	--	a	A	B	B		
7	ア関・意・態	--	--	--	--	a					b	--	-	--	a	A	-	A		
	イ思・判	-	--	-	-	b					a	--	-	-	b	B	A	B		
	ウ知・理	--	--	-	-	b	-	-			b	--	--	--	a	B	A	A		
8	ア関・意・態	--	--	--	--	c					c	--	-	--	b	C	-	C		
	イ思・判	-	--	-	-	b					b	--	-	--	c	B	C	B		
	ウ知・理	--	--	-	-	b	-	-			b	--	--	--	b	B	B	B		
9	ア関・意・態	--	--	--	--	b					b	--	-	--	b	B	-	B		
	イ思・判	-	--	-	-	b					b	--	-	-	b	B	B	B		
	ウ知・理	--	--	-	-	b	-	-			b	--	--	--	a	B	A	A		
10	ア関・意・態	--	--	--	--	b					b	--	-	--	c	B	-	B		
	イ思・判	-	--	-	-	a					b	--	-	-	b	B	B	B		
	ウ知・理	--	--	-	-	a	-	-			a	--	--	--	a	A	A	A		

- ・小評価1「身体機能の発達」「生殖にかかわる機能の成熟」・・・1時間ごとの授業を同等に評価する。
- ・小評価2「精神機能の発達と自己形成」・・・課題学習のため5時間の授業をまとめて評価する。
- ・小評価3「欲求やストレスへの対処と心の健康」・・・12時間目は10・11時間目の学習のまとめととらえ、重点をおいて評価する。
- ・評価1(学習過程の評価)・・・小評価1～小評価3のまとめの評価(小評価1～小評価3を同等に評価する)
- ・評価2(まとめの評価)・・・定期テストの評価(思考・判断,知識・理解)
定期テストの結果が,8割以上でA,5割以上でB,5割未満でCと評価する。